うなばら

発行：五十嵐小学校
新潟市西区寺尾西4-23-1（〒950-2064）
Tel.025-269-3117㈹　Fax.025-269-3118
E-mail : e710ikarashi@city-niigata.ed.jp
http://www.ikarashi-e.city-niigata.ed.jp/

しなやかな心を育てる

校　長　　諸　橋　　智

令和５年度２０３日が終わろうとしています。今年度は、教育ビジョンに沿い焦点化した教育活動を進めるとともに、その成果を外部に発信する機会を多く得ることができました。中でも子どもたちと地域の輝きを発信できたのは公開授業研究会に代表される総合的な学習の時間の取組でした。充実した教育活動をお支えいただいた、保護者の皆様、地域の皆様に深く感謝申し上げます。

五十嵐小学校は「考える力」「表す力」「つながる力」とその中心に「しなやかな心」を位置付け「未来を創りだす子ども」の育成に取り組んでいます。この「しなやかな心」は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）に、次のように記されています。

一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように・・・。

子どもは皆、素質や経験などに違いがあり、その違いは一人一人の良さや可能性と言えます。それを、集団で関わり合い、広げ深めるところが学校です。子どもの育ちを様々なスパンでとらえ、肯定的に評価し支援するのが我々大人です。子どもは学校と家庭（地域）の生活を通して、ゆっくり着実に育っていくものです。

さて、子どもたちの育ちを子どもの自己評価アンケートから振り返ってみます。顕著であったところは「友達に考えを伝える」の項目です。「はい」と答えた児童が昨年度末に比べ１０％も増加しました。

この理由は、「五十嵐スタンダード」（教育課程）をベースに、総合的な学習の時間を教育活動の中心に位置付けたことにあると考えています。

当校の教育課程には、「考え」「表す」ための『協同学習』（※１）、認め支え合って「つながる」ための『ピア・サポート』（※２）、感謝・責任・安全を柱に学校生活を創り上げる『ＰＢＩＳ』（※３）の考えを取り入れながら構成してきました。そして、これらの考えに基づき「運動会」「縦割り遠足」「六送会」の３大行事を充実させるとともに、総合的な学習の時間では、子どもたちが自ら課題を設定し、情報を収集・整理し発信してきたことが成長につながったと考えています。出来栄えを求め教え込むのではなく、

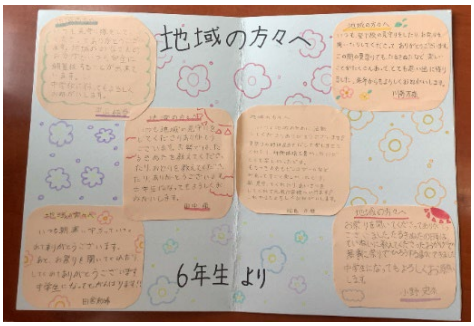
子どもが自らの力で、豊かな体験を通して豊かな人間関係を作り上げ、自己の変容を振り返ることを重視してきたと言えます。

一方で「友達に考えを伝える」と裏腹となる項目もありました。「話を最後までよく聞く」という項目が１６％も低下したのです。これは、「言いたくて仕方ない」「聞いてほしくて仕方ない」そんな思いの表れで、アウトプット意欲が高まっていると考えられます。この思いを一層発展させるには、私たち教職員の学びが不可欠です。みんなで解決したくなる課題を設定したり、解決した充実感・達成感を味わったりすることを体感させる授業力が求められるのです。身の引き締まる思いです。

六送会では、ダンスやメッセージなど全学年の子どもたちの思いが体育館いっぱいにあふれ、感動に包まれました。その振り返りでは、「みんなのためにやり遂げた」という思いが１００％となった学級が１９学級にも上り、全校平均は９８％となりました。これこそしなやかな心の現れです。

また、６年生は、総合的な学習の時間の集大成とも言える、恒例「卒業プロジェクト」に取り組んでいます。家庭科の取組の中に次のような温かなメッセージがありました。

「私の地域では、毎日見守り隊の方が立っていてくれるのでその感謝のメッセージカードを、作りました。他にも私の地域は、イベントが多くあったのでその感謝も伝えました。町内会長にこのメッセージカードを渡すと笑顔で受け取ってくれたし、『ありがとう』と言ってくれたので嬉しかったです。」



感謝とともに学校や地域の一員としての自覚を高めている様子が見て取れます。これもしなやかな心です。

多くの感動が生まれた令和５年度を締めくくる第５１回卒業証書授与式が、３月２２日に行われます。今年度から、６年生を支えてきた５年生にも参列をお願いしました。また、送る側と送られる側が向かい合う、対面方式を初めて取り入れます。山台の作成には「おやじの会」の皆様からもご尽力いただきました。

卒業生がまさに主役です。新たな門出をしなやかな心でかみしめてほしいと願います。

※１　協同学習は Johnson, Johnson、& Holubec（1993 米）により定義。小集団を活用した教育方法であり、生徒たちが一緒に取り組むことによって自分の学習と互いの学習を最大限に高めようとするもの。ただグループに分けて学習させるだけでは、協同学習とは言わず、学習者を小集団に分け、その集団内の互恵的な相互依存関係を基に、協同的な学習活動を生起させる技法。（国立特別支援教育総合研究所）

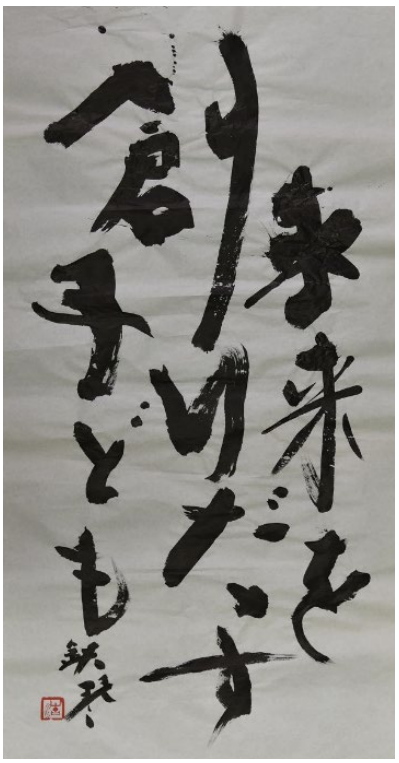
※２　ピア・サポートとは学生たちの対人関係能力や自己表現能力等、社会に生きる力が極めて不足している現状を改善するための学校教育活動の一環として、教職員の指導・援助の下に、学生たち相互の人間関係を豊かにするための学習の場を各学校の実態に応じて設定し、そこで得たスキルをもとに、仲間を思いやり、支える実践活動（ピアサポート学会）

※３　ＰＢＩＳ（Positive Behavioral Interventions and Supports：ポジティブな行動介入と支援）子どもの困った行動に対し、教員は叱責や注意などのネガティブな対応ではなく、積極的（ポジティブ）に、予防的に取り組む方策。叱責や注意といったネガティブな指導ではなく、大人が肯定的（ポジティブ）に関わり子どもたちの望ましい行動を育て、引き出すためのシステム。

＜追伸＞

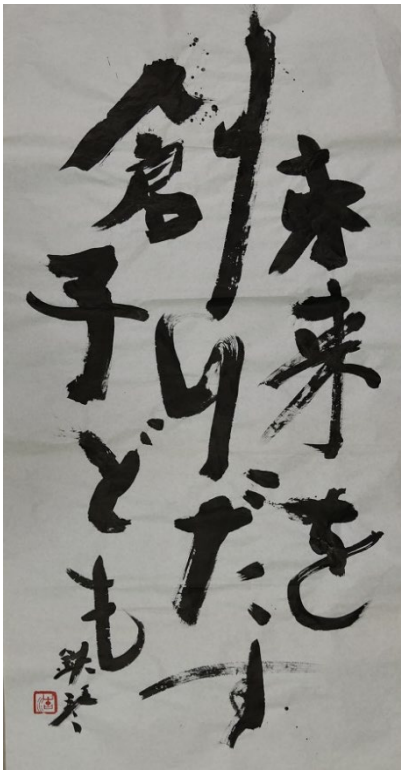
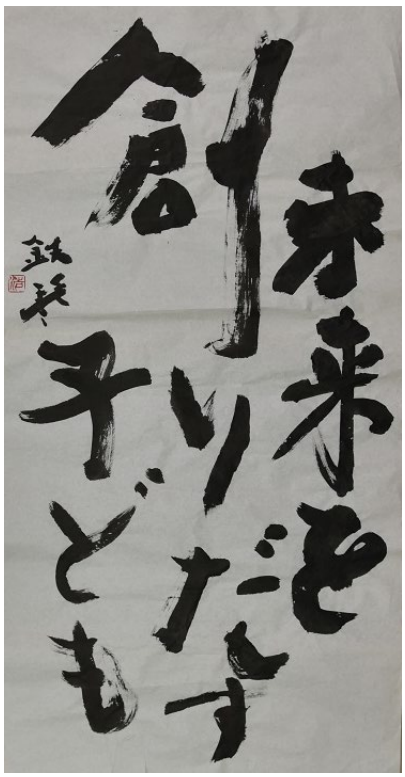
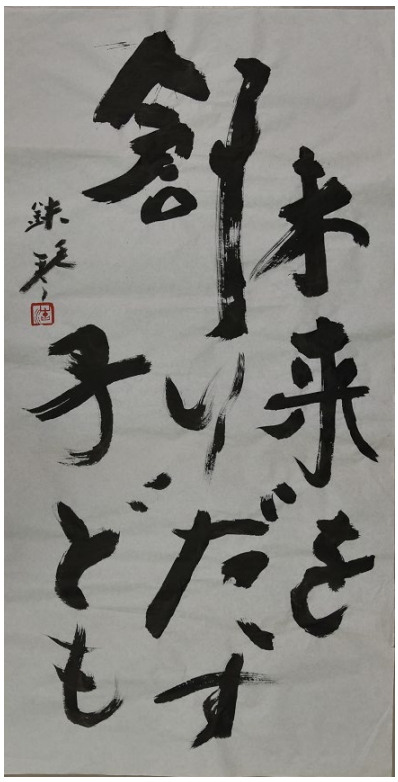
体育館に掲示するための学校教育目標の額「未来を創りだす子ども」を作成中です。縦約１４０センチ、横約７０センチの全紙版サイズで迫力にあふれたものです。

新潟大学教授　岡村　浩　先生の御手で、のびのび、力強くなどのたくさんの願いが一文字一文字に込められています。



３月５日、５年生書道教室で岡村先生から子どもたちに書道の楽しさを手ほどきいただきました。子どもたちは、共同で教育目標を書いたり思い思いの文字を書いたりして、楽しんでいました。その際、岡村先生から五つの作品とそこに込められた願いをご紹介いただきました。

その後５年生が、岡村先生の五つの作品から一つを、掲示するために選びました。選んだ理由を言葉に表す子もいれば、感性を全力で発揮して選んだ子もいます。いずれにせよ、子どもたちの期待と夢が込められていることは間違いありません。

額の正式披露は、令和６年度４月の創立記念日です。ＰＴＡの皆様からのご支援に感謝申し上げます。これから先、１０年、２０年、子どもたちの指標となることを願っています。

全５作品のうち４作品をご紹介します。ここに載っていない１作品が今、額装工程にあります。